

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 6日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520163

 研究課題名（和文） 越劇作品におけるジェンダー意識とその現代的意義
 ——日中比較に見る女性演劇の可能性

研究課題名（英文） The Gender Consciousness in Yue Opera and its Significance in Modern Days—Seeking the possibility of all-female theater by comparing those of Japan and China

研究代表者

中山 文（NAKAYAMA FUMI）

神戸学院大学・人文学部・教授

研究者番号：30217939

研究成果の概要（和文）：本研究は中国と日本における女性演劇の可能性を探るものである。楊小青演出の『班昭』のヒロイン像が、女性ばかりで演じられる越劇と男女合演の昆劇では大きく変化していることを明らかにした。また中国女性演劇の現状を把握するために、大阪で女性演出家銭瑠の講演会を実施した。さらに国によるジェンダー認識の差異を明らかにするために、『それでもワタシは空を見る』上海公演をサポートし、日中女性演劇人による座談会を行った。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore the possibility of all-female theater of Japan and China. It was found that the personality of the heroine of “Ban Zhao” directed by Yang Xiaqing was very much different in Yueju, all-female theater from that of Kunqu(昆劇), male and female theater. To comprehend the current situation of the all-female theater in China, we organized a lecture meeting in Osaka by Qian Jue, female theater director. Furthermore, we supported to present the play “Soredemo watashi wa sora wo miru (I still look up the sky)” in Shanghai and held a round-table discussion by female theater people to elucidate the difference of gender consciousness in Japan and China.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：ジェンダー、女性演劇、日中比較、越劇、演劇交流

1. 研究開始当初の背景

（1・背景）女子越劇は1937年の姚水娟による改良運動と40年代の袁雪芬による越劇改革を経て現在の形式を整えた。もともと貧困層出身の女優の危機感から始まり、知識人男性によって支えられたという女性運動としての一面をもつ（拙論「姚水娟と樊迪民の

越劇改良運動—『姚水娟専集』と『越謳』から—参照）。だが、建国期から文化大革命前まで一貫して中国共産党の多大な支持を受けているため、越劇史はつねに政治的文脈から語られてきた。そこには作品に表れたジェンダー意識と表現という視点は見られず、当時の女性観客が越劇に何を求めていたの

かという問題意識はさらに希薄であった（拙論「袁雪芬と上海の越劇」参照）。

（2・動機）

①50年代の名作『梁山伯と祝英台』『紅樓夢』『西廂記』で女性が求めたのは、女性の心に共感する男性であった。それは決して女性を苦境から救いだしてくれる白馬の王子様ではなかった。その点が同じように女性だけで演じられる宝塚歌劇との大きな差異である。男女平等の新国家を目指した中国共産党が越劇を支持した原因もそこにあったといえよう。そうであれば、すでに男女平等が確立してしまった新中国で、人々は越劇に何をしようとするのだろうか？とくに目覚ましい経済発展を見せる現代、女性観客は越劇にどのような世界観や男女関係を求めているのだろうか。

②多数の人間が参加することで成立する「演劇」作品は、作家一人の手によって成立する「文学」作品よりもしばしば厳しいジェンダーバイアスにさらされる。中国の舞台では、今も等身大のヒロインよりも、「献身・従順・善良」という男性にとって理想的な女性像が好んで描かれる。この状況の中で、女性を観客として想定し、女性によって演じられ、女性が主人公となる「女性演劇」の生まれる可能性はあるのだろうか？それらは40年代の女子越劇とどのように違っているのだろうか？

以上の2つの疑問が本研究の動機である。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3点を明らかにし、中国における女性演劇の現状を理解し、今後の可能性を探ることにある。

（1）越劇におけるジェンダー意識の変化

まず50年代の名作にどのようにジェンダー意識が表現されていたかを明らかにする。その上で21世紀の新作にその伝統がどのように継承され、発展しているのかを明らかにする。

（2）中国女性演劇の現状

演劇界で活躍する女性たち（劇作家、演出家、女優、女性演劇研究者など）の現状を知り、その問題意識、彼女ら自身の問題を共有する。

（3）日中におけるジェンダー意識の差異

民族や社会により、その国のジェンダー意識に差異が生まれるのは当然である。とくに中国と日本は一衣帯水の国であるがゆえに、みえにくい差異があることを認識しなければならない。

3. 研究の方法

（1）台本翻訳と舞台作品の実見

①現代越劇のジェンダー表現を精査するために、古典作品を翻訳して当時のジェンダー表現を確認する。また、DVDに翻訳したセリフを入れ、授業や講演会使用に資する教材を作成する。

②実見により、古典作品が上演時にどのような現代化を加えられるのかを明らかにする。

③現代越劇演出の第一人者である楊小青氏の新作越劇版『班昭』を実見し、2001年の昆劇版と比較する。女性ばかりで演じられる越劇と男女合演の昆劇では、舞台に現れるジェンダー意識にどのような差異が生まれるかを明らかにする。

（2）中国女性演劇についての講演会

「中国における女性演劇の可能性」と題する講演会・座談会を開く。中国演劇界で活躍する女性たち（劇作家、演出家、女優、女性演劇研究者など）を日本に招へいして講演していただき、彼女らが働く現場の状況や、作品に描かれる女性の特徴を理解する。

（3）日中女性演劇の交流活動

中国の女性たちは長期にわたる儒教思想を基礎とし、さらに禁欲的な共産主義教育を受けてきた。80年代以後急速に自由主義化したとはいえ、現代もなお女性が自分の性にまつわるさまざまなことについて語るのは日本ほど容易ではない。その差異を超えて、日中の女性演劇人・女性観客は互いの作品に共感できるのだろうか。互いの作品を見、率直に語り合うことによって、自己のジェンダー意識や作品の特徴を再確認できると考える。さらに啓発が生まれ、新たな女性演劇作品につながると考えた。

（4）男性劇作家作品にみるジェンダー意識の分析

男性作家の作品におけるジェンダー表現が、女性作家とどのように異なるのかを明らかにするために、作品分析を行う。取り上げるのは、30年代の作品、現代の北京作家の作品、現代の上海作家の作品である。時、所の差が、男性作家のジェンダー意識にどのように影響するかを考える。曹禺作《日出》、劉恒作《窩頭會館》、喻榮軍作《活性炭》である。

（5）ジェンダー意識の強い劇作・劇評翻訳

4. 研究成果

（1）越劇のジェンダー表現について

①古典作品については、『紅樓夢』『西廂記』が現在校正中である。『祥林嫂』について、

教材用 DVD を作成中である。

②2011年5月、台北上演された「スター版・梁祝」を実見した。祝英台の父が娘にひざまづいて馬家に嫁入りを請うシーンを確認した。封建的な父親ではなく、娘の心を理解した上で、情に訴えるまったく新しい父親像であった。

③2012年9月、杭州で開催された楊小青演出芸術作品シンポジウムで「昆劇《班昭》から越劇《班昭》へ」という発表を行った。楊小青演出した《班昭》は2005年に国家舞台芸術精品工程に選ばれた、すでに新編戯曲の名作として高い評価を得ている。2010年、その作品を同じ演出家が越劇でリメイクを行うことになった。筆者は昆劇《班昭》を2001、2003、2005年に実見している。越劇《班昭》は2010年と2012年に実見し、この前代未聞の取り組みに伴走した。その結果、昆劇では神格化された美を持つヒロインが女優の個性として表現されていた。だが、越劇では舞台上部に鏡を設置することで、ヒロインもまた一般庶民の中で奮闘する身近な女性という印象を強く表現した。この「天からの視線」は本作品のテーマである「学問の意志」と換言できるだろう。

本シンポジウムで中山は日本人として唯一の発表者であり、この発表は論文集『粉墨丹青 楊小青導演藝術』に収められた。この論文は浙江芸術職業学院学報2012年3期にも転載、ネット上でも公開されている。内容は【学会発表】①【図書】③に相当する。

(2) 女性演劇の現状と演劇交流について

①2010年度は『花木蘭』の劇作家銭瑛氏(上海戯劇学院)を招聘した。氏に関西の女性劇作家5人(棚瀬美幸、樋口ミユ、芳崎洋子、竜崎だいち、遠坂百合子)による期間限定劇団サッカリンの『その鉄塔に女たちはいたという』『そのどこかに男たちはいたという』を観劇してもらい、メンバーとの意見交換会を開いた。その上で、演劇人向けの講演会「上海女性演劇2010年度概況」と学生・一般向けの講演会「中国女性作家の描く女性形象」を行った。内容は【雑誌論文】④に相当する。

②2011年度は北京女性演劇フェスティバルの仕掛け人李子氏を訪ね、インタビューを行った。内容は【雑誌論文】③に相当する。

また、氏の作品が世代の異なる女性研究者の眼にはどのように映るのかを知るために、「女性演劇座談会—女性演出家と女性学者との日中交流」を開いた。内容は【図書】①に掲載した。

さらに、日本の女性演劇が中国でどのように受け容れられるかを検証するために、棚瀬美幸氏の『それでもワタシは空をみる』上海公演をサポートした。内容は【雑誌論文】②に相当する。

また『それでもワタシは空をみる』座談会を開き、参加した銭瑛氏と李子氏に劇評を依頼した。同時に、ツイッターなどに発表された一般観客の感想から現代中国人の意識を探った。内容は【雑誌論文】①に相当する。

③2012年度は中国学生演劇の著名指導者である桂迎教授(浙江大学)及び神戸学院大学で教鞭をとる中国語教員数名とともに李六乙『花木蘭』鑑賞会を開いた。その後座談会を開き、男性作家李六乙の『花木蘭』と女性作家銭瑛の『花木蘭』に描かれた女性形象の差について意見交換を行った。また桂迎教授にジェンダー的視点から論文を書いていただいた。当該論文「还原战甲下人性的本真——析李六乙新戏剧(花木蘭)女性视角的戏剧呈现」は【図書】①に収録した。

(3) 男性作家による演劇作品のジェンダー批評を国際学会発表

①「《窩頭會館》— 建国60周年的父親形象」では、劉恒作《窩頭會館》をとりあげた。建国60周年記念として北京人民芸術劇院が発表した本作における父親像と、建国50周年に発表された作品群における父親像を比較した。その結果、1999年では多くの作品で父親は分離する家族を集結させる役割を担っており、いざとなると正論を吐き、威厳のある父親像が描かれた。だが、2009年には子供を溺愛するあまり、子供の顔色をうかがう父親像が生まれている。だが、その家庭でもやはり女性はその男性を影から支える役割を話している。内容は【学会発表】②、【図書】④に相当する。

②「喻榮軍作品与日本观众」では、喻榮軍作《活性炭》をとりあげ、厳しい経済戦争での勝負を家庭に持ち込み、関係が壊れていく現代上海の若夫婦と田舎の父親について考察した。かつて自分を大きな愛情で包んでくれた父親が、若いころに捨てた恋人との思い出を引きずっていることを知る。文化大革命時代に自分を守るために、男らしくあることを捨てざるを得なかった男性の悲しみが描かれている。父親は男女平等に見える現代社会でも、娘の弱さをわかって優しく迎えてやってほしいと娘婿に頼む。娘婿は仕事から帰る妻を手料理で迎える。女性が男性並みに働く現代社会では、ジェンダー意識と家族愛の均衡をとる難しさを感じさせる。内容は【学会発表】④【雑誌論文】⑤に相当する。

③「从家庭论的角度看《日出》」では、曹禺作《日出》をとりあげ、登場人物の根本的な問題が、家族、父性、母性にあることを指摘した。内容は【学会発表】⑤【図書】②に相当する。

④「李静《对话与冒犯—浅论过士行戏剧》给日本人的启发」内容は【図書】①に所収。

(4) ジェンダー意識の強い劇作・劇評の翻訳

(劇作)

① 棚瀬美幸《我还是看着天空》

② 李六乙《花木蘭》

(劇評)

① 牛田博子「《1977》観劇報告」

② 牛田博子「中国・新加坡合作话剧《漂移(DRIFT)》観劇報告」

内容はすべて【図書】①に所収。

(5) 成果報告書の出版

『越劇作品におけるジェンダー意識とその現代的意義— 日中比較に見る女性演劇の可能性 —』を出版し、今回の科研費による研究業績のうち、雑誌や図書として発表することのできなかつたものを収録した。〔図書〕①に相当する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

① 中山文、棚瀬美幸、銭珏、李子「21世紀の女性演劇を求めて(4) — 棚瀬美幸『それでもワタシは空を見る』座談会と劇評」人文学部紀要 第33号 査読なし、2013年、67-82頁

② 中山文、棚瀬美幸「21世紀の女性演劇を求めて(3) — 棚瀬美幸『それでもワタシは空を見る』上海公演記録」人文学部紀要 第33号 査読なし、2013年、53-66頁

③ 中山文、李子・大江千晶・大浜慶子「21世紀の女性演劇を求めて(2) — 李子プロデュース『第一回女性演劇フェスティバル』をめぐって」人文学部紀要 第32号 査読なし、2012年、23-37頁

④ 中山文、銭珏「21世紀の女性演劇を求めて(1) — 銭珏『中国女性作家の描く女性形象』」人文学部紀要 第32号 査読なし、2012年、11~21頁

⑤ 中山文「喻榮軍作品と日本観衆」話劇 drama 総210期 査読なし 2011年、23-25頁

<http://www.china-drama.com/swf/drama/dramaissue1104.pdf>

〔学会発表〕(計5件)

① 中山文、「从昆劇《班昭》到越劇《班昭》」杨小青导演艺术研讨会暨作品展演系列活动、2012年9月15日、中国・杭州浙江艺术职业学院

② 中山文「《窩頭會館》— 建國60周年の父親形象」第8回華文戲劇節學術研討会、

2011年12月16日、中国・マカオ文化センター

③ 中山文「李静《对话与冒犯—浅论过土行戏剧》给日本人的启发」第8回華文戲劇節學術研討会、2011年12月18日、中国・マカオ文化センター

④ 中山文「喻榮軍作品と日本観衆」青年剧作家喻榮軍作品研讨会、2011年12月3日、中国・上海衡山宾馆

⑤ 中山文「从家庭论的角度看《日出》」曹禺生誕100周年國際學術研討会、2010年9月22日、中国・天津南開大学文學院

〔図書〕(計7件)

① 中山文『越劇作品におけるジェンダー意識とその現代的意義— 日中比較に見る女性演劇の可能性 —』平成22年度~平成24年度科学研究費補助金(基盤研究(C)研究成果報告書)2013年3月、120頁

② 『偉大的人文主義戲劇家 — 曹禺』田本相、中山文、中国伝媒大学出版社、2012年10月、199~205頁

③ 『粉墨丹青 楊小青導演藝術』楊建新、中山文、伊藤茂、中国戲劇出版社 2012年9月、159~165頁

<http://www.cnki.net/KCMS/detail/detail.aspx?QueryID=6&CurRec=1&recid=&filename=ZJYS201203010&dbname=CJFD2012&dbcode=CJFQ&pr=&urlid=&yx=>

④ 『新世紀華文戲劇研究:「第八屆華文戲劇節(澳門・2011)」論文集』莫兆忠、中山文、澳門(マカオ)華文戲劇学会 2012年7月、216~221頁

⑤ 『中国年鑑 2012』浜勝彦、中山文、毎日新聞社、2012年5月、217~219頁

⑥ 『中国年鑑 2011』浜勝彦、中山文、毎日新聞社、2011年5月、214~216頁

⑦ 『中国年鑑 2010』浜勝彦、中山文、毎日新聞社、2010年5月、233~235頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中山文 (NAKAYAMA FUMI)
神戸学院大学・人文学部・教授
研究者番号: 30217939